

宗勢調査にみる日蓮宗の現状と課題

地域特性から見えるもの

原 一 彰

〇. はじめに

平成二十四年度に実施された宗勢調査の概要は、『宗勢調査報告書』（以下、『報告書』とする）において報告されている。本研究は、『報告書』の分析に加え、集計データに基づくクロス分析を行い、地域特性の観点から宗門の現状と課題の整理を試みたものである。

一. 寺院運営の特性

一―一. 寺院の主な収入源

寺院の主な収入源（二つ以内の複数回答）は、全体では「檀家布施収入」（81・6%）、「年中行事・祭事の収入」（48・4%）、「信徒布施収入」（21・8%）の順に多く、教区別に見ても、いずれの教区も「檀家布施収入」の割合が最も高い。

「年中行事・祭事の収入」の割合は、九州教区（60・5%）が他教区と比較して最も高い。以下、近畿（59・8%）、東北（55・8%）、中部（54・3%）、北海道（54・2%）、北陸（51・6%）、中四国（51・6%）の六教区が50%を超え

ている。

その他、東北教区では「信徒布施収入」の割合が37・6%、京浜教区では「土地や建物の貸付収入」の割合が14・1%、山静教区では「他の寺院での収入」の割合が12・8%と、それぞれ他教区と比較して最も高い。〔報告書〕 p. 12

〔6. 収入源〕参照

一・二・ 遺骨の埋葬

檀徒の遺骨の埋葬（埋蔵・収骨）の場所は、全体では「寺有墓地」（57・8%）、「共同墓地」（22・4%）、「納骨堂」（6・1%）の順となっている。

教区別に見ると、他教区と比較して「寺有墓地」の割合が高いのは、山静（77・9%）、北陸（75・8%）、京浜（74・7%）、北関東（70・4%）の四教区である。

「共同墓地」の割合が最も高いのは、北海道教区（38・4%）、中四国教区（36・8%）であり、北海道教区では「納骨堂」（36・7%）の割合がそれに次ぐ。九州教区では「納骨堂」の割合（30・1%）が最も高い。〔報告書〕 p. 11

〔5. 墓地の形態〕参照

二・ 檀信徒数の増減と寺院の経営問題・後継者問題

二一・ 檀信徒数の増減

檀家数の増減（過去八年間）は、全体では「減少した」（36・8%）が「増加した」（25・3%）を上回っている。教区別にみると、他教区と比較して「増加した」の割合が高いのは、北関東教区（44・4%）、東北教区（34・1%）であり、いずれも「減少した」の割合を上回っている。他の教区はいずれも「減少した」の割合が高いが、他教区と比

較して「減少した」の割合が特に高いのは、北陸（47・0％）、九州（46・4％）、北海道（44・1％）、近畿（43・4％）の四教区である。（図表2.1）

信徒数の増減（過去八年間）は、全体では「減少した」（31・1％）が「増加した」（16・6％）を上回っており、教区別に見ても「増加した」の割合が高い教区はない。他教区と比較して「減少した」の割合が最も高いのは東北教区（54・9％）であり、北海道教区（38・4％）、北陸教区（38・2％）の割合も高い。（図表2.2）

北関東教区と東北教区では檀家数が「増加した」割合が高いが、東北教区では「信徒布施収入」の割合が高い中、信徒数の減少が顕著である。また、檀家数が「減少した」割合の高い北陸、九州、北海道、近畿の四教区のうち、北海道教区と北陸教区では信徒数の減少も顕著である。（『報告書』p. 5「檀信徒数の動向とその対応」参照）

二二二．寺院の経営問題

〈教師が悩んでいること〉

教師が現在悩んでいること（三つ以内の複数回答）は、全体では「経済的に不安である」（28・3％）、「特になし」（24・5％）、「健康問題」（22・1％）、「後継者問題」（16・3％）の割合が高い。

教区別に見ると、他教区と比較して「経済的に不安である」の割合が高いの

図表2.1 檀家数の増減（教区別）

檀家数の増減	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
増 加	25.3%	29.5%	22.0%	44.4%	31.2%	25.8%	18.2%	17.7%	17.4%	22.3%	34.1%	24.9%
減 少	36.8%	30.1%	37.7%	17.2%	32.2%	30.5%	47.0%	43.4%	39.9%	46.4%	32.3%	44.1%

図表2.2 信徒数の増減（教区別）

信徒数の増減	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
増 加	16.6%	22.0%	15.5%	20.1%	14.3%	17.2%	11.9%	17.3%	13.4%	19.6%	11.5%	20.3%
減 少	31.1%	28.4%	20.8%	32.0%	22.6%	29.3%	38.2%	32.9%	32.8%	36.7%	54.9%	38.4%

は、北陸教区（33・3％）、東北教区（32・0％）、北海道教区（31・6％）、近畿教区（31・4％）である。北陸教区は「特になし」の割合が最も低い（17・1％）。北陸、北海道の二教区は、檀家数、信徒数の減少が共に顕著、近畿教区は檀家数の減少、東北教区は信徒数の減少がそれぞれ顕著であった。

京浜（23・0％）、北関東（23・7％）の二教区は他教区と比較して「経済的に不安である」の割合が低く、「特になし」の割合が高い（京浜27・0％、北関東26・7％）。

東北教区は檀家数が「増加した」割合が高かったこともあり、他教区と比較して「特になし」（26・3％）の割合も高く、二極分化が見られる。千葉教区も「特になし」（26・1％）の割合が高い。（『報告書』p.28「7.現在の悩み」参照）（図表2.3）

〈教師が関心のある社会問題〉

教師が関心のある社会問題（三つ以内の複数回答）は、全体では「少子高齢社会問題」24・9％、「教育・いじめ問題」23・0％、「核・原発・エネルギー問題」22・2％の割合が高い。他に、「過疎過密問題」13・7％などとなっている。

教区別に見ると、他教区と比較して「少子高齢社会問題」の割合が高いのは、北海道（32・4％）、北陸（30・5％）、東北（27・2％）の三教区である。「過疎過密問題」の割合も同じ三教区で北海道（29・2％）、東北（21・5％）、北陸（20・6％）と高くなっており、いずれも教師の悩みが「経済的に不安である」の割合が高かった。

近畿教区は「経済的に不安である」の割合が高かったが、「少子高齢社会問題」は低く（21・7

図表2.3 教師が悩んでいること（教区別）

教師が悩んでいること	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
経済的に不安	28.3%	23.0%	29.5%	23.7%	28.1%	25.8%	33.3%	31.4%	29.0%	27.1%	32.0%	31.6%
特になし	24.5%	27.0%	26.1%	26.7%	25.3%	22.7%	17.1%	22.8%	23.0%	25.5%	26.3%	24.5%

%)、他の要因が大きいと見られる。教師の悩みが「特になし」の割合が高かった京浜教区も「少子高齢社会問題」(22.3%)、「過疎過密問題」(5.1%)の割合は低い。〔報告書〕 p.27

〔6. 関心ある社会問題〕参照 (図表2.4)

〈教師の兼業〉

教師の兼業は、全体では「寺院のみに従事している(他寺院勤務・宗門機関に勤務する者も含む)」82.2%、「寺院以外に兼業している」10.1%、「寺院以外を専業としている」5.2%となっている。「寺院以外に兼業している」と「寺院以外を専業としている」を合わせた割合を教区別に見ると、他教区と比較して中部教区(21.4%)が最も高く、以下、北関東(18.3%)、山静(17.6%)、北陸(17.1%)、中四国(17.0%)の四教区では割合が高い。北海道(10.3%)、東北(10.8%)、九州(11.7%)の三教区では割合が低い。

「寺院以外に兼業している」または「寺院以外を専業としている」と回答した教師の理由は、全体では「寺務の収入のみでは生活ができないから」39.0%、「身につけた技能・資格を生かしたいから」17.6%、「その職業を通じて色々な人と接したいから(社会経験のため)」15.6%となっている。

教区別に見ても、すべての教区において「寺務の収入のみでは生活ができないから」の割合が高い。「寺院以外に兼業している」または「寺院以外を専業としている」と回答した割合の高い四教区のうち、山静(46.1%)、北陸(45.5%)の二教区で「寺務の収入のみでは生活ができないから」の割合が特に高い。山静教区では「他の寺院での収入」の割合が他教区と比較して最

図表2.4 教師が関心のある社会問題 (教区別)

教師が関心のある社会問題	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
少子高齢社会問題	24.9%	22.3%	23.1%	24.0%	25.4%	25.2%	30.5%	21.7%	25.8%	25.3%	27.2%	32.4%
過疎過密問題	13.7%	5.1%	14.4%	8.0%	13.6%	6.3%	20.6%	10.1%	18.5%	17.8%	21.5%	29.2%

も高かった。北陸教区は檀家数、信徒数の減少が顕著で、教師の悩みも「経済的に不安である」の割合が高かった。教師の悩みが「特になし」の割合が最も高かった京浜教区は、「寺務の収入のみでは生活ができないから」の割合が他教区と比較して最も低く(26・7%)、「身につけた技能・資格を生かしたいから」の割合が他教区と比較して最も高い(23・8%)。(『報告書』p.21「1. 教師の構成」参照)

〈寺庭婦人が悩んでいること〉

寺庭婦人が現在悩んでいること(三つ以内の複数回答)は、全体では「特になし」26・6%の割合が最も高く、以下「経済的に不安である」25・4%、「自分の時間が持てない」22・9%、「後継者問題」17・9%の割合が高い。

教区別に見ると、他教区と比較して「特になし」の割合が高いのは、北海道(35・1%)、山静(34・2%)、北関東(32・4%)の三教区である。

他教区と比較して「経済的に不安である」の割合が高いのは、北陸(34・6%)、東北(30・2%)の二教区であり、教師の悩みと同様の状況である。北海道教区は教師の悩みでは「経済的に不安である」の割合が高く、寺庭婦人の意識とは差が見られる。檀家数が「増加した」割合の高い北関東教区では「経済的に不安である」の割合が低い(17・9%)。

京浜教区では、「自分の時間が持てない」(31・7%)、「特になし」(25・6%)の割合が高く、「経済的に不安である」(19・4%)の割合は他教区と比較して低く、教師の悩みと同様の状況である。

都市規模別に見ると、「経済的に不安である」の割合は、「町・村」(34・8%)、「小都市」(30・8%)で高く、「中都市」(21・5%)、「大都市」(20・5%)で低い。立地特性別に見ると、「経済的に不安である」の割合は、「農業、林業、水産業が主な地域」(32・2%)で高く、「商業、サービス業が主な地域」(19・3%)、「住宅が主な地域」(22・7

%)で低い。(『報告書』 p. 33「4. 現在の悩み」参照) (図表2.5)

二一三、後継者問題

〈寺院後継予定者〉

寺院後継予定者の有無は、全体では「いる」(58・1%)が「いない」(35・6%)を上回っている。教区別に見ると、「いない」の割合は北陸教区(46・7%)が他教区と比較して最も高く、「いる」(47・0%)と拮抗している。北陸教区は檀家数、信徒数の減少が顕著で、経済的不安感も高かった。以下、山静(39・3%)、中四国(38・7%)の二教区などで「いない」の割合が高い。(図表2.6)

都市規模別に見ると、「いない」の割合は町・村(40・2%)で高く、中都市(33・9%)、大都市(31・6%)で低い。立地特性別に見ると、「いない」の割合は、「農業、林業、漁業が主な地域」(40・3%)で高く、「住宅が主な地域」(32・7%)、「商業、サービス業が主な地域」(28・5%)で低い。

寺院後継予定者がいない理由は、全体では「子供がいない」(27・0%)、「弟子がいない」(22・1%)の割合が高く、以下「弟子、子供がいても後継意志が不明」(12・3%)、「子供がいても後継意志がない」(10・7%)などとなっている。教区別に見ると、他教区と比較して「子供がいない」の

図表2.5 寺庭婦人が悩んでいること(教区別)

寺庭婦人が悩んでいること	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
特になし	26.6%	25.6%	23.9%	32.4%	34.2%	26.6%	21.3%	21.1%	23.4%	24.7%	28.6%	35.1%
経済的に不安	25.4%	19.4%	29.3%	17.9%	24.3%	26.6%	34.6%	27.0%	24.2%	24.1%	30.2%	24.7%

図表2.6 寺院後継予定者の有無(教区別)

寺院後継予定者	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
いる	58.1%	61.2%	57.3%	62.7%	55.5%	57.8%	47.0%	57.9%	55.8%	66.3%	64.2%	55.9%
いない	35.6%	32.0%	37.7%	29.6%	39.3%	36.3%	46.7%	34.8%	38.7%	26.5%	28.8%	35.6%
差(いる-いない)	22.5%	29.2%	19.6%	33.1%	16.2%	21.5%	0.4%	23.1%	17.1%	39.8%	35.4%	20.3%

割合が高いのは、九州（37・5％）、北関東（36・0％）、東北（33・8％）の三教区である。

他教区と比較して「子供がいても後継意がない」の割合が高いのは、近畿（14・1％）、中部（12・9％）、北海道（12・7％）、北陸（12・0％）の四教区であり、近畿、北海道、北陸の三教区は檀家数または信徒数の減少が顕著で経済的不安感が高かった。他教区と比較して「弟子、子供がいても後継意志が不明」の割合が高いのは、京浜（18・1％）、北関東（18・0％）の二教区であり、経済的不安感が低かった。（図表2.7）

寺院後継予定者がいないことへの今後の対応は、全体では「まだ考えていない」（35・2％）、「代務寺にしよう」（12・7％）、「弟子をとる」（10・7％）の割合が高い。以下、「廃寺も止むを得ない」は5・0％、「養子を迎える」は4・9％である。教区別に見ると、いずれの教区も「まだ考えていない」の割合が最も高く、他教区と比較して「まだ考えていない」の割合が特に高いのは、九州（45・5％）、北関東（40・0％）、京浜（39・8％）、中四国（39・0％）の四教区である。

他教区と比較して「代務寺にしよう」の割合が高いのは、北海道教区（17・5％）であり、「廃寺も止むを得ない」の割合が高い

図表2.7 寺院後継予定者のいない理由（教区別）

寺院後継予定者がいない理由	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
子供がいない	27.0%	31.3%	30.5%	36.0%	21.5%	18.3%	21.8%	25.2%	26.5%	37.5%	33.8%	27.0%
子供がいても後継意がない	10.7%	9.6%	11.2%	8.0%	9.4%	12.9%	12.0%	14.1%	8.8%	9.1%	9.2%	12.7%
弟子、子供がいても後継意志が不明	12.3%	18.1%	9.1%	18.0%	14.2%	11.8%	11.3%	10.4%	12.5%	13.6%	12.3%	1.6%

図表2.8 寺院後継予定者のいないことへの対応（教区別）

寺院後継予定者がいないことへの対応	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
まだ考えていない	35.2%	39.8%	32.6%	40.0%	36.1%	29.0%	33.8%	31.9%	39.0%	45.5%	26.2%	31.7%
代務寺にしよう	12.7%	6.0%	14.4%	2.0%	15.9%	15.1%	14.3%	12.3%	14.0%	8.0%	15.4%	17.5%
廃寺も止むを得ない	5.0%	5.4%	1.6%	4.0%	6.0%	10.8%	6.8%	3.1%	3.7%	3.4%	7.7%	6.3%

のは、中部教区（10・8％）である。（『報告書』 p. 13 「7. 後継者とその対応」参照）（図表2.8）

〈教師／寺庭婦人が悩んでいること〉

教師が現在悩んでいること（三つ以内の複数回答）のうち、「後継者問題」の割合は全体では16・3％であった。他教区と比較して「後継者問題」の割合が高いのは、北陸（22・1％）、北海道（19・0％）、近畿（18・3％）の三教区であり、いずれの教区も「子供がいても後継意志がない」の割合が高かった。割合が低いのは、京浜（12・6％）、北関東（13・4％）、千葉（14・4％）の三教区である。（『報告書』 p. 28 「7. 現在の悩み」参照）

寺庭婦人が現在悩んでいること（三つ以内の複数回答）のうち、「後継者問題」の割合は全体では17・9％であった。他教区と比較して「後継者問題」の割合が高いのは、東北（23・1％）、北陸（22・3％）、近畿（20・8％）、九州（20・1％）の四教区であり、いずれの教区も檀家数または信徒数の減少が顕著であった。最も割合が低いのは檀家数の増加が顕著であった北関東教区（11・0％）である。都市規模別に見ると、「後継者問題」の割合が最も高いのは「小都市」（21・2％）、最も低いのは「大都市」（15・4％）である。（『報告書』 p. 33 「4. 現在の悩み」参照）

（図表2.9）

図表2.9 教師・寺庭婦人が悩んでいること－後継者問題（教区別）

悩んでいること －後継者問題	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
教 師	16.3%	12.6%	14.4%	13.4%	16.8%	17.5%	22.1%	18.3%	16.7%	16.2%	16.5%	19.0%
寺庭 婦 人	17.9%	16.5%	14.4%	11.0%	16.5%	18.6%	22.3%	20.8%	18.2%	20.1%	23.1%	15.6%

三・ 宗門との関わり

三― 宗門への期待

〈教師の宗門への期待〉

教師が宗門に期待すること（三つ以内の複数回答）は、全体では「宗門教育養成機関の強化」（25・9%）、「宗務事務の能率化・簡素化」（22・6%）、「教化資料の強化・充実」（22・5%）、「寺院・教師に対する福祉共済の強化」（20・6%）、「一般向けマスメディアによる教化」（20・0%）の割合が高い。

教区別に見ると、他教区と比較して「宗門教育養成機関の強化」の割合が最も高いのは北海道教区（32・4%）、最も低いのは千葉教区（21・6%）である。「宗務事務の能率化・簡素化」の割合が最も高いのは東北教区（27・5%）、最も低いのは中部教区（17・0%）である。東北教区は「宗門組織・機構の改革」の割合も高い（21・5%）。

「教化資料の強化・充実」の割合が高いのは中四国（29・6%）、九州（27・1%）の二教区である。「寺院・教師に対する福祉共済の強化」の割合が他教区と比較して高いのは、東北（28・2%）、北陸（25・5%）、中部（24・1%）の三教区であり、割合が最も低いのは京浜教区（17・1%）である。東北、北陸の二教区は経済的不安感が高く、京浜教区は低かった。（『報告書』 p. 29 「8. 宗門への期待」参照）

〈寺庭婦人の宗門への期待〉

寺庭婦人が宗門に期待すること（二つ以内の複数回答）は、全体では「特になし」（32・2%）の割合が最も高く、以下「寺庭婦人の福祉共済の充実」（27・2%）、「寺庭婦人用資料・情報の充実」（26・4%）の割合が高い。

教区別に見ると、他教区と比較して「特になし」の割合が最も高いのは北関東教区（42・8%）であり、割合が低

いのは中部(22・3%)、九州(24・1%)、北陸(24・6%)の三教区である。

「寺庭婦人の福祉共済の充実」の割合が他教区と比較して高いのは、北陸(34・6%)、中部(34・0%)、東北(31・2%)の三教区であり、「寺院・教師に対する福祉共済の強化」と同様の状況である。最も低いのは北関東教区(19・3%)である。

「寺庭婦人用資料・情報の充実」の割合が他教区と比較して最も高いのは北海道教区(36・4%)であり、最も低いのは北関東教区(18・6%)である。〔報告書〕p. 34「5. 宗門への期待」参照(図表3.1)

〈宗務院作成資料の活用と要望〉

宗務院が作成した布教活動資料の教師の活用は、全体では「全てではないが、活用している」41・7%、「ほとんど活用していない」29・9%、「活用している」23・9%となっている。教区別に見ると、他教区と比較して「活用している」の割合が高いのは、中部(29・9%)、北海道(29・2%)、中四国(28・8%)の3教区であり、「ほとんど活用していない」の割合が高いのは九州(33・7%)、千葉(33・1%)、東北(32・0%)である。

教師が宗務院に作成して欲しい布教活動資料の有無は、全体では「いいえ」58・7%、「はい」25・8%となっており、教区別に見ると、他教区と比較して「いいえ」の割合が最も高いのは千葉教区(63・3%)、「はい」の割合が最も高いのは中四国教区(30・3%)である。

〔報告書〕p. 24「3. 布教資料の活用」参照(図表3.2)

図表3.1 教師・寺庭婦人の宗門への期待(教区別)

宗門への期待	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
福祉共済(教師)	20.6%	17.1%	18.2%	21.0%	19.0%	24.1%	25.5%	20.0%	20.8%	21.2%	28.2%	20.9%
福祉共済(寺庭婦人)	27.2%	23.1%	25.0%	19.3%	28.4%	34.0%	34.6%	28.8%	24.5%	26.8%	31.2%	25.3%
特になし(寺庭婦人)	32.2%	37.0%	37.0%	42.8%	34.0%	22.3%	24.6%	32.3%	30.9%	24.1%	30.2%	35.1%

三二・宗門運動への取り組み

〈宗門運動重点六項目〉

宗門運動重点六項目のうち教師が「取り組んだ」と回答した割合が高いのは、全体では「祖山総登詣」（45・7％）、「但行礼拝の実践」（40・3％）であり、以下「いのちの活動」32・4％、「立正安国論」奏進七五〇年関連事業」28・6％、「青少年教化」26・4％、「国際交流活動」9・1％となっている。

教区別に見ると、他教区と比較して「祖山総登詣」に「取り組んだ」割合が最も高いのは山静教区（55・3％）であり、最も低いのは北海道教区（34・4％）である。「立正安国論」奏進七五〇年関連事業」に「取り組んだ」割合が他教区と比較して高いのは中部（32・1％）、東北（32・0％）、千葉（31・6％）の三教区であり、最も低いのは北関東教区（23・7％）である。（『報告書』 p. 23 「2. 立正安国・お題目結縁運動の取り組み」参照）

〈宗祖御降誕八百年記念事業〉

宗祖御降誕八百年記念事業の計画は、全体では「これから計画する」（41・8％）、「考えていない」（32・9％）の割合が高く、以下「計画している（事業進行中も含む）」10・5％、「何もしない」8・2％となっている。教区別に見ると、他教区と比較して「考えていない」の割合が最も高いのは、千葉教区（37・7％）であり、「何もしない」の割合が高いのは、山静（11・0％）、中部（10・9％）、北海道（10・7％）の三教区である。

「考えていない」と「何もしない」の合計は、全体では41・1％であり、教区別に見ると、

図表3.2 宗務院作成の布教活動資料の活用と要望（教区別）

宗務院作成の 布教活動資料	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
ほとんど活用 していない	29.9%	30.6%	33.1%	29.0%	28.6%	27.1%	31.2%	28.4%	27.0%	33.7%	32.0%	25.7%
作成して欲しい 資料はない	58.7%	58.6%	63.3%	59.2%	60.5%	58.4%	54.8%	58.6%	52.4%	58.4%	59.2%	59.7%

千葉(47・2)、山静(45・2)、北海道(42・9)、東北(41・6)の四教区が、他教区と比較して割合が高い。〔報告書〕p.16「8. 宗祖御降誕八〇〇年記念事業」参照(図表3.3)

四. 教区の特徴

以上に述べた各教区の特徴を次ページに整理する。(図表4.1)

五. 寺院規模による分析

以上、各教区の特徴を整理したが、項目によっては、教区ごとの差異よりも寺院規模(檀家数)との相関が強く見られるものもあった。以下に特徴的な項目について整理する。

五-1. 檀信徒数の増減 — 寺院規模別

檀家数の増減(過去八年間)を寺院規模別に見ると、「増加した」の割合は全体では25・3%だが、寺院規模が大きいほど高くなる傾向があり、檀家数百一戸以上では全体の割合を上回り、特に二百一戸以上では「減少した」の割合より高く、「四百一〜五百戸」48・2%、「三百一〜四百戸」45・1%、「二百一〜三百戸」35・9%となっている。

檀家数が「減少した」の割合は全体では36・8%だが、檀家数百戸以下で高く、「五

図表3.3 宗祖御降誕八百年記念事業の計画(教区別)

御降誕八百年 記念事業の計画	全体	教 区										
		京浜	千葉	北関東	山静	中部	北陸	近畿	中四国	九州	東北	北海道
計画している	10.5%	11.2%	11.1%	11.2%	9.1%	11.7%	9.5%	9.4%	12.8%	9.6%	9.3%	13.0%
これから計画する	41.8%	41.3%	36.3%	38.5%	40.3%	44.1%	44.2%	45.5%	43.6%	47.9%	41.6%	35.6%
考えていない	32.9%	33.4%	37.7%	34.9%	34.2%	27.0%	33.3%	31.2%	28.8%	31.3%	35.4%	32.2%
何もしない	8.2%	7.5%	9.5%	5.9%	11.0%	10.9%	6.3%	6.4%	9.1%	4.2%	6.2%	10.7%
考えていない + 何もしない	41.1%	40.9%	47.2%	40.8%	45.2%	37.9%	39.6%	37.6%	37.9%	35.5%	41.6%	42.9%

図表4.1 教区の特徴

教 区	収入源・墓地	檀信徒数	経済問題・後継者問題	宗門への期待、宗門運動
京 浜	檀家布施 土地建物貸付 寺有墓地		不安なし（教師） 自分の時間がない（婦人） 弟子子供の後継意志不明	福祉共済強化期待少（教師）
千 葉	檀家布施		不安なし（教師）	宗門教育に期待少 宗門布教資料活用少 宗門布教資料作成希望少 『安国論』事業取り組み多 御降誕800年事業少
北関東	檀家布施 寺有墓地	檀家数増	不安なし（教師／婦人） 教師の兼業 弟子子供の後継意志不明 後継者問題に悩みなし（婦人）	宗門への期待なし多（婦人） 資料情報の充実期待少（婦人） 『安国論』事業取り組み少
山 静	檀家布施 他の寺院 寺有墓地		教師の兼業（生活できない） 不安なし（婦人） 後継者なし	祖山総登詣取り組み多 御降誕800年事業少
中 部	檀家布施 年中行事祭事		教師の兼業 子供に後継意志なし 廃寺も止むを得ない	宗門事務能率化簡素化期待少 福祉共済強化期待多（教師／婦人） 宗門布教資料活用多 『安国論』事業取り組み多
北 陸	檀家布施 年中行事祭事 寺有墓地	檀家数減 信徒数減	経済的不安（教師／婦人） 少子高齢社会問題に関心 過疎過密問題に関心 教師の兼業（生活できない） 後継者なし 子供に後継意志なし 後継者問題に悩み（教師／婦人）	福祉共済強化期待多（教師／婦人）
近 畿	檀家布施 年中行事祭事	檀家数減	経済的不安（教師） 子供に後継意志なし 後継者問題に悩み（教師／婦人）	
中四国	檀家布施 年中行事祭事 共同墓地		教師の兼業 後継者なし	教化資料強化充実期待多（教師） 宗門布教資料活用多 宗門布教資料作成希望多
九 州	檀家布施 年中行事祭事 納骨堂	檀家数減	後継者問題に悩み（婦人）	教化資料強化充実期待多（教師） 宗門布教資料活用少
東 北	檀家布施 年中行事祭事 信徒布施	檀家数増 信徒数減	経済的不安／不安なし（教師） 経済的不安（婦人） 少子高齢社会問題に関心 過疎過密問題に関心 後継者問題に悩み（婦人）	宗門事務能率化簡素化期待多 宗門組織機構改革期待多 福祉共済強化期待多（教師／婦人） 宗門布教資料活用少 『安国論』事業取り組み多 御降誕800年事業少
北海道	檀家布施 年中行事祭事 共同墓地 納骨堂	檀家数減 信徒数減	経済的不安（教師） 不安なし（婦人） 少子高齢社会問題に関心 過疎過密問題に関心 子供に後継意志なし 代務寺にしてみよう 後継者問題に悩み（教師）	宗門教育に期待多 宗門布教資料活用少 資料情報の充実期待少（婦人） 祖山総登詣取り組み少 御降誕800年事業少

十一～百戸」45・0%、「三十一～五十戸」50・2%、「十一～三十戸」49・3%などとなっている。

(図表 5.1)

信徒数の増減(過去八年間)を寺院規模別に見ると、「増加した」の割合は全体では16・6%だが、寺院規模が大きいほど高くなる傾向があり、檀家数「四百一～五百戸」20・2%、「三百一～四百戸」20・9%などとなっている。

信徒数が「減少した」の割合は全体では31・1%だが、檀家数百戸以下で高く、「五十一～百戸」33・9%、「三十一～五十戸」38・9%、「十一～三十戸」39・3%などとなっている。(図表 5.2)

五二二・後継予定者——寺院規模別

寺院後継予定者の有無を寺院規模別に見ると、「いる」の割合は全体では58・1%だが、寺院規模が大きいほど高くなる傾向があり、檀家数百一戸以上では全体の割合を上回り、70%～80%前後となっている。

図表5.1 檀家数の増減(寺院規模別)

檀家数の増減	全体	檀 家 数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
増 加	25.3%	0.0%	14.0%	16.7%	18.5%	19.8%	27.5%	30.2%	35.9%	45.1%	48.2%
減 少	36.8%	5.6%	36.6%	49.3%	50.2%	45.0%	36.9%	33.5%	31.3%	21.3%	25.4%
差(増加-減少)	-11.5%	-5.6%	-22.6%	-32.7%	-31.7%	-25.2%	-9.4%	-3.4%	4.6%	23.8%	22.8%

図表5.2 信徒数の増減(寺院規模別)

信徒数の増減	全体	檀 家 数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
増 加	16.6%	4.4%	13.6%	11.2%	14.1%	16.7%	18.4%	19.3%	18.6%	20.9%	20.2%
減 少	31.1%	35.6%	37.0%	39.3%	38.9%	33.9%	27.3%	26.5%	28.4%	19.3%	20.2%
差(増加-減少)	-14.5%	-31.1%	-23.4%	-28.1%	-24.8%	-17.2%	-9.0%	-7.3%	-9.8%	1.6%	0.0%

図表5.3 寺院後継予定者の有無(寺院規模別)

寺院後継予定者	全体	檀 家 数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
い る	58.1%	28.9%	41.9%	44.3%	50.2%	56.9%	69.7%	67.3%	70.2%	68.9%	78.9%
い ない	35.6%	64.4%	54.3%	50.0%	42.6%	35.8%	25.9%	25.7%	24.2%	23.0%	16.7%
差(いる-いない)	22.5%	-35.6%	-12.5%	-5.7%	7.6%	21.1%	43.7%	41.6%	46.0%	45.9%	62.3%

寺院後継予定者が「いない」の割合は全体では35・6%だが、檀家数百戸以下で全体の割合を上回り、特に三十戸以下では50%を超え、「いる」の割合より高い。(図表5.3)

寺院後継予定者がいない理由を寺院規模別に見ると、「子供がいても後継意志がない」の割合は檀家数二百戸以下で高い。「弟子、子供がいても後継意志が不明」の割合は全体では12・3%だが、三百一戸以上では「子供がいない」の割合より高く、「三百一〜四百戸」25・0%、「四百一〜五百戸」26・3%となっている。

(図表5.4)

寺院後継予定者がいないことへの今後の対応を寺院規模別に見ると、いずれも「まだ考えていない」が最も多いが、檀家数五十戸以下では「代務寺にしてみよう」の割合が全体の割合(12・7%)を上回り、三十戸以下では「廃寺も止むを得ない」が全体の割合(5・0%)を上回っている。(図表5.5)

五・三・宗祖御降誕八百年記念事業の計画——寺院規模別

宗祖御降誕八百年記念事業の計画を寺院規模別に見ると、「考えていない」の割合は寺院規模が小さいほど高い傾向があり、檀家数百五十戸以下では全体の割合(32・9%)を上回っている。

図表5.4 寺院後継予定者がいない理由(寺院規模別)

寺院後継予定者がいない理由	全体	檀家数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
子供がいない	27.0%	14.7%	18.1%	26.3%	32.6%	28.1%	38.5%	25.0%	34.3%	23.2%	21.1%
子供がいても後継意志がない	10.7%	10.3%	8.3%	12.3%	9.8%	17.3%	10.0%	13.0%	4.0%	5.4%	0.0%
弟子、子供がいても後継意志が不明	12.3%	5.2%	11.1%	9.6%	13.6%	10.0%	15.4%	10.9%	14.1%	25.0%	26.3%

図表5.5 寺院後継予定者がいないことへの今後の対応(寺院規模別)

寺院後継予定者がいないことへの対応	全体	檀家数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
まだ考えていない	35.2%	30.2%	28.5%	32.5%	35.3%	31.9%	43.8%	34.8%	45.5%	44.6%	26.3%
代務寺にしてみよう	12.7%	15.5%	20.8%	21.1%	22.8%	10.0%	4.6%	1.1%	2.0%	1.8%	0.0%
廃寺も止むを得ない	5.0%	24.1%	9.7%	6.6%	2.2%	2.3%	0.0%	1.1%	0.0%	0.0%	0.0%

また、「何もしない」の割合も寺院規模が小さいほど高い傾向があり、五十戸以下は全体の割合（8・2%）を上回っている。（図表5.6）

六．まとめ

教区単位で見ると、寺院の主な収入源や墓地の形態など、地域の歴史と伝統に根差した特色が存在する。教区ごとの特色を活かした布教戦略の立案は可能であり、価値があると考えられる。

一方、檀信徒数の減少が顕著で経済的不安感が高く後継者問題を抱える北陸教区と、檀家数の増加が顕著で経済的不安感が低い北関東教区の差異など、個別の対応が課題となる教区間格差も見られた。教区間格差は、宗門への期待や、宗門運動への取り組み等にも影響を与えているものと考えらえる。

また、教区の特性ではなく、都市規模や立地特性（農林水産業中心と住宅中心など）に起因する差異も見られる。都市規模、立地特性など、地域類型に応じた対応が望まれる。

なお、多くの項目において、地域特性よりも寺院規模を強い要因とする差異が見られた。経営が厳しい状況にある檀家数百戸以下の小規模寺院、特に将来的な寺院存続が難しい三十戸以下、五十戸以下の寺院について、早急な対策が望まれる。

以上

図表5.6 宗祖御降誕八百年記念事業の計画（寺院規模別）

御降誕八百年 記念事業の計画	全体	檀 家 数									
		なし	1-10戸	11-30戸	31-50戸	51-100戸	101-150戸	151-200戸	201-300戸	301-400戸	401-500戸
計画している	10.5%	3.9%	7.9%	9.9%	6.9%	12.4%	11.4%	8.7%	13.7%	10.2%	15.8%
これから計画する	41.8%	15.0%	27.9%	35.7%	40.5%	39.9%	45.5%	50.6%	48.2%	51.6%	56.1%
考えていない	32.9%	33.9%	38.5%	37.3%	36.3%	36.0%	33.9%	30.4%	28.4%	27.5%	20.2%
何もしない	8.2%	39.4%	21.5%	11.6%	8.3%	4.5%	4.4%	3.6%	3.4%	2.0%	3.5%
考えていない +何もしない	41.1%	73.3%	60.0%	48.9%	44.7%	40.5%	38.3%	34.1%	31.8%	29.5%	23.7%